



ご挨拶と私が取り組む研究のお話

本学経済学部経済学科長 堀江哲也

はじめまして。堀江哲也と申します。2021年4月から上智大学経済学部経済学科長を務めております。2023年3月末まで、どうぞよろしくお願ひいたします。私は、神戸大学経済学部で学士を、神戸大学大学院経済学研究科で修士号を、米国ミネソタ大学大学院応用経済学研究科でPh.D.を取得しております。私は環境資源経済学と農業経済学を専門としております。このキャリアの初めは効率的な外来種や獣害対策に関する研究をしておりましたが、その後、産業の気候変動抑制対策について、現在は環境保全型農業と農業における気候変動への適応対策に関する研究を行っております。

農業部門は、環境の面において様々な課題を抱える産業です。環境問題を議論するときには、多くの場合は製造業部門やエネルギー部門に光が当てられます。しかし、農業部門も他の産業と同様に、自然環境に影響を与えます。化学肥料と農業は水質汚染をし、生態系に悪影響をもたらします。また、本年の8月に発表されたIPCC第6次評価報告書によると、世界全体で排出される温室効果ガスの1割を、農業部門が占めています。家畜や稲作は、メタンガスや一酸化二窒素を排出しているのです。また、機械や施設を用いることにより、電力や化石燃料を用いますので、間接的または直接的に二酸化炭素の排出を行っています。

上記のことを考えますと、農業部門は製造業部門と同様に、水質汚染抑制や温室効果ガス排出抑制対策といった、環境保全型農業を考える価値があります。行政においてもこの問題は取り上げられてはいるのですが、なかなか実際にはその対策の前には進んでいません。他の産業と同様に、新たな費用を生産者に課してしまう規制の導入は難しいのです。そのため、どうしても補助金の導入が行われるのですが、政府の財源は大きくはありませんので、農家が農法を慣行型農法から環境保全型農法へと変化させるのに十分なほどの金額を、農家に対して用意することができません。そのため、環境保全型農業促進政策は、日本においてうまくは進んでいません。

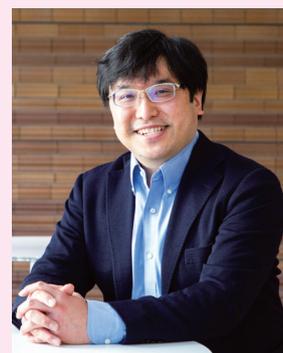
上記の課題にこたえるべく、現在私は、農家の行動を規制するわけでも、農家に補助金を与えるわけでもなく、第3の方法によって農家の意志決定に影響を与える方法を研究しています。これはここ20年間で開発されてきた行動経済学の手法を取り入れた「ナッジ」という方法です。農家に何らかの情報を与えることにより、農法に関する意志決定を変化させるのです。現在、滋賀県の稲作農家を対象にし、農林水産政策研究所、滋賀大学、尾道市立大学の研究者と共同研究を行い、我々の考えたナッジが上手く働くかどうかについての実験（ランダム化比較試験と呼ばれます）を行っています。

また、農業は他産業と比較して、気象の影響を大きく受ける産業です。気候変動が進む中で、毎年、異常気象やこれまでに経験していないランダムな気象変化によって、農業被害額が上昇してきています。これまでは土木工事や品種改良によって、乗り越えてきた気象による被害でしたが、これからの農家は新たな方法でこれらの問題を乗り越えなければいけません。他方で、ICTやビッグデータに基づいた新技術を導入した情報集約的な農法である、スマート農業という新しい営農が社会では話題になっています。これによって、省労働力や省エネルギーだけではなく、気象変化に起因する被害抑制（気象被害や虫害）にも繋がり、気候変動への適応も期待されています。しかしながら、私のこれまでのフィールド調査では、上記のような情報集約的な農業生産を行っている個人農家は非常に限定的な戸数しかいませんでした。

しかしながら、情報集約的な農業の利点を、農家がまったく知らないとは考えにくいのです。そのため、現在、私は、農家が上記のようなスマート農業と呼ばれる営農方法についてどのような選択をするのかという意志決定メカニズムについて疑問を持ちました。これを解明し、そのうえで、農家へのスマート農法の採用を促すような政策（これも、規制や補助金ではないナッジが良いのではないのでしょうか）を考え出したいと考えております。これは、ちょうど今年度の文科省の科学研究費に申し込んだ研究です。

最後になりましたが、もし卒業生の皆様の中に、「こんな研究、やってみないか？」や「こんなことで困っているけれども、この課題の解決の糸口はないか？」とお考えの方がいらっしゃれば、ぜひお声がけください。研究は、次から次へと出てくる新しい社会の課題を解決すべく行ってまいります。同時に一緒に楽しく行いたいと考えております。また、自分の研究成果や世界の研究成果を、教育に還元し、皆様の未来の後輩の教育の質の向上に努めたいと考えております。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



女性の声に寄り添う活動をめざして

上智大学 77-43 経営ソフィア会会長 浅野真司 (1981年 経・営)



活動後3年目の「上智大学77-43経営ソフィア会」は、今年5月に団体登録されました。私は仕事上海外暮らしが長く、60歳で帰国した時は77-43クラスの旧友が盛大な歓迎会を開いてくれました。その時に銀祝の祝賀会には、代議員兼準備委員からの勧誘もなく同人以外に僅か6名しか

出席していなかったと聞きました。還暦までクラス会すらも開かれなかったそうです。その分、今後は密度の濃い交流をと張り切っていた矢先に新型コロナウイルスが出現して阻まれましたが、ネットを利用して遅滞しながら近況を報告し合い心の距離を近づける目的の活動を続けています。

経営学科77-43クラスの女性5名は地方在住者が多く、23区在住の女性は学生時代から1名だけです。なので、教室や宴会場の予約に始まり当日の会場設営から受付集金、食事スイーツの準備提供、ゲームクイズと景品記念品の用意贈呈、記念写真撮影と郵送に至るまで、労力と出費を天野さんに甘えてきた経緯があります。こうした実情を知った会長の私にできることは、自分さえ損をしなれば良いと見て見ぬ振りやスルーすることではなく、

女性の苦労話や不満の声を傾聴し、出来るだけ丁寧寄り添うことだと考えました。そんな私の思いを先取りした太田君が積極的に会場で募金を集めてくださり、高橋君が自主的にご寄付くださったことは感謝の念に堪えません。自ら声を上げて矢面に立ち、火中の栗を拾う事も厭わず、群れない旧友の参加を強く勧誘するとともに、77-43クラス以外にも経営学科同期の参加を歓迎するオープンな会でありたいと望んでいます。

東京五輪関連では、前組織委員会会長の森喜朗氏(84)が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」とJOC臨時評議員会で発言し女性の声を軽視した結果、辞任に追い込まれました。女性の金メダルを噛んだ河村たかし名古屋市長(72)、女性ボクサーを揶揄した野球評論家張本勲氏(81)のように、女性への無神経な言動が跋扈する社会が続いた結果、鈍感で自覚のない老人が量産されたことへの真摯な反省と改善が、今、強く求められていると思います。

60代からスタートした当会が末永く活動を続けるために必要なことは、女性の声を尊重し女性に「カッコイイ!」と感じてもらえるような言動を心がけることではないでしょうか。ソフィア会の活動を通じて、一緒に、素敵なおシニアになりましょう!



後半生をかけて取り組む『備前焼の道』

松井宏之 (1984年外・英)

1984年に英語学科を卒業後、大学院に進み国際関係論を専攻、3年程うだうだしつつも、そろそろ社会に出なければと、プレッシャーがかかっていました。

就職活動をほとんどせず、年齢も関係なく野村證券に入社できたことは、時代背景もありますがラッキーだったと思います。

投資銀行部門に配属され、アジア太平洋地域の債券発行引受を生業とし、勢いのある地域と直接触れ合い、大きな仕事に満足感もありました。

ただ、「フィリピンファンドNYSE上場取ったぞ、アジア開発銀行グローバル債主幹事だ」と同僚が大喜びする中、心からのワクワク感を持てなかったです。

30代に入り、備前焼の道に強く進みたいと思うようになりました。正確に言うと、ずっと伝統工芸に興味があり、時間を見つけては日本やアジアの産地に出かけ、さまざまな作品に触れて、その世界に引き込まれていきました。

自分が後半生をかけて取り組むのに、備前焼が一番実現性が高く、深く追求できると確信し、この道に進むことを決断しました。

備前焼の産地近くに住んでいたのも、幼い頃から普通に慣れ親しんでいたこと、先祖から受け継いだ土地や建物があつたことが、大きな助けとなりました。

個人事業主として、一から立ち上げるには数千万円かかる費用の多くを節約でき、ハードルが下がりました。

藤原啓先生が39歳で出版社を辞めて、縁も地盤もないこの道に入り、人間国宝になられたことも、大きな励みでした(日経、私の履歴書)。技術的側面よりも、他の要素が大きく影響する備前焼の世界だから、色々やれるのではと希望を持ちました。

私は、39歳の年齢制限ギリギリで備前焼陶芸センター(養成所)を受験。3.5倍の関門を通過し、もう戻らないと覚悟を決めたのです。

備前焼が800年にわたって、一度も途絶えることなく存続できたのは、その魅力が人間にとって、根源的であるからではないでしょうか。

人を惹きつける美しさは、高い技術で純度を高め、細部を極めて作り出されたものではありません。むしろ不純物も取り込み、さまざまな景色を生み出す多様性が魅力です。歪みさえも規格外とせず、むしろ味わいと感じられるから不思議です。

多くの焼き物が寸分違わぬ高品質を求め、色々なばらつきがあるのに、それが個性として認められるところに、奥深さを感じています。

備前焼は、400年以上前の桃山時代が最高水準だったと言う事実も、興味深いです。

「40年前のパソコンスペックが最高ですね」と言ったら笑われますが、備前焼は違うのです。

右肩下がりの、失われた30年どころか400年を経て、ようやく桃山古備前の再興に届くところまで、戻りつつあると確信しています。

森陶岳師匠に弟子入りし、2016年まで85m大窯プロジェクト^(注)に参加。桃山古備前の再興に従事し、結果を出せたと思います。一部は桃山古備前にもない、新しい境地にあると思っています。

現在は、個人で使いこなせる最大級の窯(20m)で製作しています。



(注) 構想から窯出しまで、20数年を要したプロジェクト。備前史上最大の窯で、107日間焼成を行ない、桃山古備前生に、大きな足跡を残しました。その模様は、NHKのドキュメンタリー番組でも放送されました。

山形県で24代続く酒蔵に大甕を納入し、酒を醸造するプロジェクトが進行しています。現代の技術に桃山時代が融合した新しい日本酒が、この冬登場予定です。試験醸造したものを口にしましたが、なかなかです。戦国武将に想いを馳せながら一献というのも、おつなものではないでしょうか。

海外市場の比率が高まる中、上智大学で学んだことがとてもプラスに働いています。沢山のソフィアンの方と繋がり、助けていただきました。NY、パリ、上海、台北、ケルンと個展の機会をいただき、ドイツでは大窯作品が、ベルリン国立アジア美術館に収蔵（予定）となりました。

日本と海外では、よく訊かれる質問が全く異なるので、最後にご紹介したいと思います。

日本のお客様のほとんどが、「何故、野村證券をやめて、この道に入ったのですか？ 大変ですね」と話されます。

海外では、私の金融機関キャリアを話題にする方は、ほほいしません。「これは日本独自の焼き物ですか？ この模様は、どうやって出すのですか？ 人工的なものですか？」といった、作品のことをよく聞かれます。

私が、「薪で二週間焼くと、この模様が出ます」と答えると、「大変ですね」と返事がきます。

いずれにせよ大変なのですが、定年がない仕事なので、体が動く限りは続けていきたいと思っています。

コロナ禍を乗り越えて活気づくスペイン

加藤辰也（1984年 経・営）

2020年3月14日にスペイン政府が新型コロナウイルス感染拡大の封じ込めを目的とした警戒事態宣言を発令して以降、当地において様々な規制措置が講じられてきました。今日の落ち着いた状況に至るまで長い道のりでしたが、国民の8割がワクチン接種を完了したことが功を奏し、ようやくウィズコロナの日常が視野に入りつつあります。元々、社交的な国民性であり、週末には家族や友人たちと食事に出かけるのが大好きなスペイン人にとって、同居家族以外との飲食や各種集会在り制限されたことは大変なストレスであったと思われます。加えて、コロナ以前には年間8千万人を超える海外からの観光客を受け入れてきたスペイン観光業界の経済的ダメージは甚大であり、9月以降は順調な回復を見せつつあるものの、本格的なインバウンドの復活に期待が高まっています。

観光のイメージが強いスペインですが、近年、様々な産業分野で力を発揮しています。例えば、欧州の自動車産業といえばドイツが有名ですが、実は欧州域内でスペインはドイツに次ぐ自動車生産国であり、年間280万台を超える生産台数のうち8割以上を海外へ輸出しています。また、90年代以降、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの導入も盛んに行われ、国内にとどま

らず、スペイン企業による海外ビジネス展開も増えています。現在、コロナ禍で大きなダメージを受けた欧州各国は欧州復興基金を活用した経済テコ入れに取り組みつつあり、スペインはイタリアに次ぐ復興資金受入れ国になっています。中でも脱炭素化を目指すグリーンディールとデジタル化を主な柱にした復興計画の始動が注目され、一部では日本企業によるプロジェクト参入の動きも見られます。

日頃の生活の中でコロナからの回復を印象付けるシーンとして、スペイン・サッカーリーグラ・リーガの試合観戦の変化が挙げられます。感染予防措置の一環で無観客試合が長く続いた後、今季開幕から40%の観客動員を復活させましたが、多くのファンは盛り上がり欠けるスタジアムの雰囲気物足りなさを感じていました。いよいよ10月から収容人数制限が解除となり、10月24日には伝統のクラシコ戦（バルセロナ vs レアルマドリード）が開催されました。満員のキャンプノウ・スタジアムは大いに盛り上がりを見せ、アウエーのレアルが勝利を飾りました。他方、メッシ選手がチームを去って以降、苦戦を続けるバルサのファンにとっては、今後不安を残す結果となりました。

さて、日増しに秋の深まりを感じる季節となり、これからマドリードの街はクリスマスシーズンに向けて賑わいを見せ始めます。バルやレストランのテラス席にはストーブが設置され、11月下旬に



マドリード市内のカフェテリア テラス席

はクリスマス・イルミネーションが街を彩ります。以前に比べると少なくなりましたが、道端で焼き栗が売られるなど、昔からの冬の風物詩も健在です。スペイン人にとって、離れ離れに暮らす家族が必ず集まるクリスマスは特別な意味合いをもっています。お互いが健康で1年を過ごせたことに感謝し、その喜びを分かち合うための大切な家族の祝日といったところでしょうか。今年のクリスマスは、明るく賑やかな談笑が響き渡るマドリードの街が復活することを期待しています。

(ジェトロ・マドリード事務所 所長)



アルカラ門

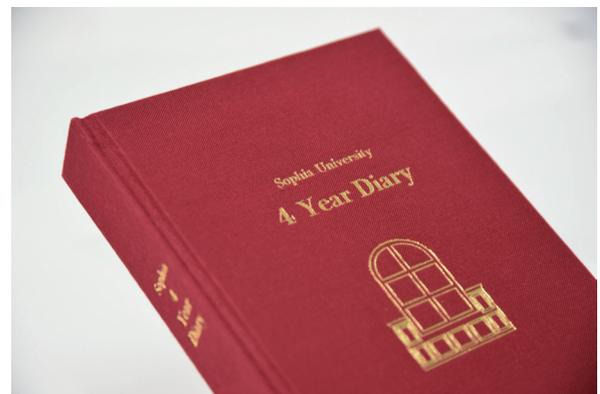
小阪ゼミナールでの商品企画 4年連用日記「Sophia 4 Year Diary」

白井さくら (2020年 経・営)

2020年度上智大学経済学部経営学科卒業の白井さくらと申します。私は3、4年生の時に経済学部経営学科の小阪ゼミナールに所属し、ゼミ活動で紀伊國屋書店上智大学店と共同でオリジナルの大学グッズの商品開発を行いました。そして今年7月1日に紀伊國屋書店上智大学店にて発売されたのが、大学生活の思い出を1冊に残す4年連用日記Sophia 4 Year Diaryです。

連用日記の商品開発

連用日記とは、毎年同じ日の記録を同じページに書き込む日記で、過去の同じ日に自分が何をしていたかを一目で振り返ることができます。この連用日記のコンセプトに感銘を受け、販売されている連用日記が3年、5年、10年のみである点に着目し、大学時代の思い出を何年経っても見返す



【商品概要】

- 商品名：Sophia 4 Year Diary
- サイズ：B6 変型
- ページ数：日記部分 366 頁
- 価格：¥4,231 (税込)
- 販路：紀伊國屋書店 上智大学店

ことのできるものとして4年連用日記を考案しました。その後ゼミの教授である小阪玄次郎先生やゼミ生、紀伊國屋書店上智大学店のご協力のもと、商品開発に着手しました。商品ニーズ把握のため在學生にアンケート調査を実施し、上智大学グッズとしての商品仕様やゼミ生考案のデザインを元に製作を依頼し、紀伊國屋書店の方々とサンプルチェックを行い、完成に至りました。

特に4年生からの活動では、新型コロナウイルスの影響で大学の入構が制限されており、対面での話し合いが難しい状態でした。アイデアのまま終わってしまうのではないかと不安な時期もありましたが、紀伊國屋書店の方々とメールのやり取りやZoomでの話し合いを行い、商品開発を進めていきました。アイデア考案から商品化まで2年3ヶ月かかりましたが、小阪先生やゼミ生、紀伊國屋書店上智大学店の方々など周りの支えがあったからこそ、商品化することができたと感じています。

小阪ゼミの活動

小阪ゼミでは、製品開発論、経営組織論を研究テーマにしています。演習で対象とする製品開発論という分野は、経営戦略論や組織論、マーケティングなどの応用領域にあたります。ゼミでは狭く製品開発だけに絞ることなく、まず企業経営を分析する基本ツールである、経営指標の分析手法や統計分析の基礎を学び、実際に分析する練習を通じて「丁寧に思考する力を養う」ことを目的としています。

ゼミ活動では今まで連用日記の他に、朱肉付き印鑑ケース、聖イグナチオ教会の天井デザインをモチーフとしたバッグハンガーや80年代に発売されていたソフィアノートの復刻版を大学グッズとして商品化してきました。特に今回4年連用日記を製作してくださった企業は、復刻版ノートを製作してくださった昭和ノート株式会社様です。4年

連用日記として取り入れたい仕様を実現できたのは、この繋りもあり製作をお願いできたからだと感じています。

4年連用日記のポイント

まず、一目で上智大学を思い出す「1号館を表紙と中身にあしらったデザイン」に是非注目していただきたいです。商品仕様を考案していく上で、大学グッズとして重要な要素である「上智大学らしさ」を大切にしながら、日記として日常に溶け込むさりげなさを意識しました。また、大学生として記録を残しやすい商品仕様もこだわった点です。4年連用日記は1ページが4分割となっているので、大学生でも気軽に続けやすい記載量となっており、「学生時代にやりたい10のこと」というページでは学生時代の目標を設定することができます。

思い出を振り返るだけでなく、就職活動時の自己分析に活用したり、外国語学部所属の学生であれば学んでいる言語で日記を書いて勉強に活用したり、思い思いの使い方をしていただければ幸いです。

最後に

上智大学の学生時代を、懐かしくかけがえのない時間だったとみなさん振り返ることがあるかと思えます。SNSを通して自分の過去の投稿や写真から思い出を振り返ることができますが、サークルの友達と過ごして楽しかった日、プレゼン発表が上手いかななくて悔しかった日、その日の気持ちを自分の文字で日記に書き残すことに大きな意味があるのではないのでしょうか。もし私が1年生の時にこの商品に出会うことができたなら、どんな目標を持って学生生活を過ごしたでしょうか、またそれを数年後、数十年後に振り返ることができたらどれだけ心踊る瞬間になったでしょうかと思えます。是非多くの上智大学生にこの商品を手にとっただけでしたら幸いです。



－「年会費納入」・「エコノミアンへの投稿」のお願い－

当会は経済学部同窓会として組織され、大学創立100周年を経過して、いまや当学部卒業生（当会員）の数は1万人をはるかに超えています。

エコノミアンはそれらの会員の会報として相互の消息を伝え、交流の一端を担うべく、担当役員によって編集されています。「会報をもっとおもしろく」「総会で久し振りに会った」「大学の発展ぶりに目を見張った」「役員でお手伝いをしたい」などなど、感想や要望が当編集部には寄せられています。担当役員も手弁当で四谷に出かけ、会報や行事を少しでも「充実」したいと張り切っています。

会報はみなさまの年会費3,000円で作られています。また、「研究奨励金」は大学募金室を通じて経済学部へ寄付され、学生をサポートします。同封の「〒払込取扱票」を使用してご送金をお願いいたします。振込手数料はかかりません。みなさまの「声」をエコノミアン誌面に反映させていただきます。秋の総会にもぜひ、遊びに来てください。お待ちしております。

ソフィア会からのお知らせ

＜ソフィア会事務局へのお問い合わせは info@sophiakai.gr.jp へ＞

○秋季全国代議員会のトピックス

秋季全国代議員会は今年もオンライン開催となり、10月16日（土）の午後2時から行われました。

担当の常任委員がソフィアンズクラブに集合し、特設スタジオからのZOOM配信で実施。森総務委員長の司会進行により、ご来賓の上智学院理事長 佐久間勤先生、上智大学学長 曄道佳明先生からご挨拶をいただき、鳥居正男ソフィア会会長が一年間の活動報告をしました。

今回の代議員会でのトピックスは、継続したコロナ禍でのハイブリッド授業を余儀なくされている状況の中で大学内のインフラ整備の必要性や、IT環境整備にかかる学生たちへの経済的支援が必要なため、ソフィア会から上智大学へ3000万円の緊急支援を行うことを募金委員会から提案し、決議されたことです。

佐久間理事長、曄道学長からは、寄付に対する謝意が述べられると同時に、長引くコロナ禍の影響下でも教育の質を落とさない努力とハイブリッド授業の強みを生かした教育を続けて行く決意が表明されました。

○ザビエル杯日本語スピーチコンテスト

12月4日（土）午後1時から5時まで

上智大学の協力のもとに、日本で学ぶ留学生が参加する「第3回ザビエル杯日本語スピーチコンテスト」を開催します。大学の枠を超えた交流を目指し、上智大学に限らず日本の大学に留学している学生を広く募集して、一昨年からスタートした催しです。上智大学が目指す「グローバル・キャンパス」を留学生同士や留学生と在学生、卒業生のより一層の国際文化交流を実現する場として参加いただける機会を提供するものです。今年もZOOMウェビナーでのオンライン開催となりますが、より多くの方の

ご参加をお待ちしています。詳細はソフィア会ホームページをご覧ください。

○オールソフィアンのクリスマス 12月10日（金）午後7時から9時 まで



毎年恒例の「オールソフィアンのクリスマス」も14回目を迎えます。例年は学内のアクティブコモンズ（旧9号館地下カフェ）で開催されて来たこの催しも、今年は昨年に引き続きオンライン開催になります。第1部の「いのり」の場では、上智大学法学部を卒業と同時にイエズス会に入られ、現在はバチカンの教皇庁立グレゴリアン大学法学部長を務めておられる菅原裕二神父様がバチカンから参加されメッセージを送って下さいます。第2部の「つどい」の場では様々なアーティストによるスペシャルステージが用意されています。詳細はソフィア会ホームページをご覧ください。

○ソフィアンズクラブの利用について

ソフィアンズクラブは2021年10月4日から平日のみ開館しています。開館時間は、サロンが午前10時から午後4時まで、会議室は午前11時から午後4時までのうち、ご希望の時間。土日祝日は閉館。利用人数は、会議室は10名まで、サロンは一つのテーブルに4名まで、またカウンタ席は1席空けて利用が可能です。飲食は原則禁止です。

なお、詳細はソフィア会ホームページの「ソフィアンズクラブ利用について」をご覧ください。

○メインストリート工事に伴う正門閉鎖

現在、メインストリート改修工事中です。ご来校の際は土手側の正門は閉鎖中ですので、新宿通り側の北門からお入りください。

経鷺会第32回総会

経鷺会（経済学部同窓会）は、2021年11月13日（土）午後1時よりオンラインで第32回総会を開催します。内容は、佐久間理事長、曄道学長にご挨拶賜り、網倉経済学部長の講話「経済学部の今」、小林祐児氏（2018院卒）の講演「ニッポンの雇用～はたらき方のこれまでと、これから」がごございます。下記のZOOMウェビナー（入室自由）のリンクから視聴できますので皆様奮ってご参加下さい。

●ZOOMウェビナー（視聴のみ）のリンク

<https://us02web.zoom.us/j/88423122000?pwd=THZpNnBKbmFFSjdkSnJRd1hFYjVTZz09>

経鷲会ゴルフコンペ報告

上村茂徳 (1990年 経・経)

9月20日(月曜日・敬老の日)に経鷲会ゴルフコンペが、藤ヶ谷カントリークラブで開催されました。今回は、初参加者を含め若手から中堅まで幅広い年齢層が一堂に会し田村会長以下総勢11名が参加しました。

前の週までは不安定な空模様が続いていたこともあり天候が多少心配されましたが、当日は絶好のゴルフ日和となりました。

プレー終了後は、密を避けるため、大きなコンパイルームにてささやかな宴を催し、田村会長の進行

で自己紹介や今後の当会のイベントの告知、情報交換などが行われ、ゴルフコンペの本来の目的である会員相互の親睦を体現するような素晴らしいイベントとなりました。

経鷲会では、今後も懇親会、セミナー、情報交換会や季節行事等、様々な活動を企画し会員間の積極的な交流を図ってまいりますので、是非、ご参加ください。

(不動産ソフィア会 会長)



エコノミアン編集雑誌

『ソフィアの鷲 その⑦』

11月はソフィア祭の月です。学生にとっては一年間の部活動成果を様々な形で発表する機会です。上智大学マーケティング研究会に所属していた筆者は、部員全員で夏休みの間に汗を流して行った市場調査の結果を整理分析し本にまとめる作業など、一連の活動を終えた充実感を味わっていた時期でした。ソフィア祭は、上智大学の創立者や歴代の学長、学生の育成のために貢献されたすべての先生方、すなわち先哲のために祈りを捧げるミサから始まります。今年もまだコロナ禍の影響からオンラインで、上智学院理事長の佐久間勤先生の司式のもとに荘厳なミサが執り行われました。自宅からそのミサに参加しつつ、しばしの間、お世話になった2人のユニークな先生方を思い出していました。ひとり



毎年先哲祭が行われる聖イグナチオ教会

はゼミでの指導教授だった国際金融論の三木邦夫先生で、東京銀行ロンドン支店長などを歴任された後、バイエル・ジャパン社の社長でありながら上智大学で教鞭をとられていました。授業以外にもバイエルの事務所にお邪魔して、海外での生活やビジネスについて教えていただいたものです。そしてもうひとり、上智大学マーケティング研究会の指導をくださった斎藤金一郎先生(Economyan No.59「ソフィアの鷲 その⑤」でご紹介しています)。筆者が在学時はすでに上智大学を離れておられ、米国の調査会社であるJ.W.Tompson社が日本に設立した研究所の所長をされていました。各種の市場でのアンケート調査のアルバイトを部活として沢山頂いて、世間のあらゆる種類の人々と接し多くの実践的な勉強をさせていただきました。11月は是非、学生時代を思い出し先哲に思いを馳せてみましょう。

戸川 清 (1971年 経・経、VISTOM Marketing 代表)